

Title	ワールドカフェ
Author(s)	
Citation	目で見るWHO. 2016, 59, p. 12-14
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86666
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

ワールドカフェ

講演者と参加者が直接対話を行い、聞きたいことを訪ね、助言をもらう機会である。他の参加者の意見を聞き、新しい知見を得、先生方の経験談を聞き国際保健への関わり方を考えていった。以下にその対話の一部を紹介する

Q:医療支援を実施するにあたり、職員が赴いて現地を見てから現状を政府に訴えかけるパターンと、政府関係者に直接訴えかけるパターンの二パターンがあると思うが、どちらのアプローチでやっていくかはどのような基準で決めるのか？

A:基本的には、国際保健に限らず援助協力というのは、自立を促すものなので、現地の人たちができれば一番いい。そのためには、緊急事態で直接援助する我々がやらないと命が助からない場合以外は、その国の人たちが自分たちでその国のシステムで予算もつけてやれるようにすることが重要。あるいは、民間企業がやってもいいし、各家庭でやるようにしてもいい。これをハンドオーバーという。ではハンドオーバーできる状態にするにはどうするか。



ハンドオーバーには3つある。各家庭が自分で

できること、企業とかでできること、政府ができること。たとえば、予防接種を民間企業では普通はやらない。これは公衆衛生の政府の役割としてやる。しかし、簡単な下痢のための経口補水液による対策などは、政府がやるよりも民間で10円出したり5円出して買えるようにしてやる方が、末端に行き渡るわけだ。あるいは、お医者さんにかからなくても各家庭が知識として持っていればいいこともある。それは手洗いなど予防に関すること。保健なら保健の観点でやるべきことはあるけれども、それをハンドオーバーできる状態にする。

それでは、企業に任せるにはどうすればいいか。たとえばヨード欠乏症に関してだが、民間企業が塩を作る際にヨードをスプレーで塗り、それを各家庭に売るということができればいいわけだ。政府がずっと行うのではなく、民間企業がヨードを買う、民間企業が買うのが難しい場合は、政府がヨードを買ってそれを、民間企業が団体を作って購入し分配することができる。

予防接種の場合は、たとえば、難民がいるとする。難民キャンプができたときに、一番最初にやることは、二つあって、一つは麻疹の予防接種。これは、麻疹は非常に感染力が高いので、ぶわつと広がり、多くの子供が死んでしまうため、手当たり次第にワクチンを打つ。もう一つは、栄養状

態を調べて、栄養状態改善に取り組むこと。これは政府がやれば一番良いが、やれないときはNGOやユニセフが行う。ユニセフの役割というのはどちらかというと直接現場を見るが、NGOができるようになったり政府ができるようになったりするようなシステムを作ることが中心だ。

そのためには、政府の政策、予算、法律、方針ができないとだめ。そして、一般の人たちがそういったサービスを受けたいと思うような気持ちになるシステムを作っていくことが大事。具体的に現在行っていることは、予防接種は大切だからうちの子供連れて行かなければと思ってもらえるように、政府が広報宣伝活動をしている。他の国ではこんなビデオやポスターを作って、これを学校で先生が言ったらこんな風になりましたよ、といった良い事例を持ってきて、それをシェアさせるという形で広げている。

また、ある国でうまくいったら、こういう方法でうまくいったということを他の国にもっていくということもできる。例えば、ナイジェリアでムスリムの人たちに予防接種を行うのがうまくいかなかったのが、こういう方法でやったら上手くいったというのを、パキスタンやアフガニスタンに持っていくということもできる。ある国の中できようになったことをハンドオーバーして、またそれをハンドオーバーしてほかの国に広げていくというのがユニセフの役割だと思う。

Q:ほかの国に向けて広げていくとき、宗派の違いなどが大きな障壁になってくるかと思うが、やはりやり方を変えてやっていかないとだめなのか？

A:そうだね。たとえば、キリスト教国では牧師さんがいる。イスラム教国ではイマームにお願いするとか、またそのときの説明の仕方を変える。それからワクチンに関してもイスラムでは口に入るものをイスラムの儀式に則って処理したものでないと食べられないという、ハラールというものがあり、ハラールのワクチンかどうかを聞かれることがある。また、ビタミンAとオイルは豚肉から

ではないよね、など宗教が違っていると、説明の仕方も色々変わってくる。



Q:国連機関で働くのに興味があるので、国連機関で働くために身に着けた技術とか努力されたことを教えて欲しい。

A:私は英語が喋れて、修士・博士号を持っており、2年以上の職務経験があるが、これらやるには最低5~6年かかる。しかし、5~6年やるだけの意思が続くか。それは難しいと思う。だから、この間に養う必要があるのは、自分の使命感、価値観、これを明確に持つておかないとそこまで到達しない。一番重要なのは、自分の価値観や目指している目標をはっきりさせる。またそれを考えるだけではなく、外に出してみる、文字に書いてみる、書いて客観的に、私はこれがやりたいのか、できるのかということは何度も何度も考える。そうすると、これをするための必要なキャリアは何なのか、そのための必要要件は何なのか、それをするための能力が自分にはあるのか、準備ができているのか、そういうのを勉強しながらどんどん書いていくことで、プランができてくる。

また、英語の力は常に磨かないといけない。それから国連に入ってからでも常に勉強しなくてはならない。ずーっと、勉強。

あと、ぶれない自分というのを持っていた方が効果が高い。私の人生の中で幸運を呼び込んだ方法があるが、それは人生計画を立てたこと。自分が目指しているものを、毎年、毎日はっきりさせていって、それにしがうと、日々のToDoリス

トができてくるし、月や年の目標もできてくるわけだ。普通だったら、色んなチャンスが皆さんの目の前をとおっている。だけど、これは僕の将来の目標に関係しているなって思ったら、捕まえて、もしくは通り過ぎそうになっているものを追いかけて捕まえて引きずり込んで、自分のものにする。そういう能力がつく。だけど、自分の価値観とかプランとかがない人は、自分の前に来たものだけに対して動いてしまう。人から言われたもので動いてしまう。だから、自分のモチベーションを最大限にあげて、かつ、一番進みたい方向に向けて自分のやりたいことをはっきりさせるというのを人に言っている。そうすると、向こうから、「こんなものがあるんですよ」と言ってくれる。そうやって、幸運がどんどんやってくる。そして、きつ

けができたらそういうネットワークを大切にする。

Q:ユニセフでのポジションというのは告知があって、次どこに行くかというのが決まっていたのか？

A:ユニセフの中では、世界中のポストの空席情報というのがあり、自分のレベルかもう一つ上のレベルに希望を出す。希望を出した人は2~30人いて、その中で面接があり、コンピテンシー、能力審査があります。UN コンピテンシーフレイマーでは、こういう能力のある人が必要だというのがある。たとえば、このポストはコミュニケーション能力が非常に強くないといけないとか、このポストはプログラミング能力が非常に強くないといけないとか。だが一応、大体は決まっていて、その中から競争で採用される。だから、常に競争。